

## 【学校法人 平方学園は2023年で90周年を迎えます】

# 明和児童クラブだより

第8号

2023年11月10日発行

(文責) 鷲頭

## インフルエンザに注意を！！

インフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖が9月下旬から各学校で続いています。11月に入っても、インフルエンザ様疾患による欠席者は多く、心配な状況です。先日一斉送信メールにて、送迎車乗車時のマスク着用について確認させていただきましたが、児童クラブといたしましても、感染予防対策を今後も継続させていただきますので、保護者の皆様方にもぜひご協力いただけますようお願いいたします。



## 会員継続確認の再調査及び会員継続願等の提出では、ご協力ありがとうございました

標記の転出書類についてはご協力ありがとうございました。何れも**本日(11月10日)**が提出期限となっていますので、ご確認願います。今後は以下のように会員継続の手続きを進めていく予定です。また、2024年度に一年生になる弟さん・妹さんの入会手続きも以下のように進めていくこととなりますので、ご承知おきください。

### 【現会員の手続きについて】

- (～11月10日) ・「会員継続願」の提出 (各家庭⇒児童クラブ)
- (12月中) ・必要書類 (家庭状況調査票、就労証明書、写真等公開にともなう調査のお願いなど) の提出依頼 (児童クラブ⇒各家庭)
- (1月中) ・上記必要書類の提出 (各家庭⇒児童クラブ)
- (2月中) ・必要書類の確認・精査後に、「入会継続許可書」を送付 (児童クラブ⇒各家庭)

### 【新会員の手続きについて】

2024年度1年生になる弟さん・妹さんが、入会を希望する場合の手続きは、次のようになります。

\*ただし、明和幼稚園在園児については幼稚園をとおして依頼や提出等をお願いします。

- (～11月10日) ・「入会申請書」の提出 (各家庭⇒児童クラブ)
- (11月下旬) ・入会決定のお知らせ (児童クラブ⇒各家庭)
- (12月中) ・必要書類 (家庭状況調査票、就労証明書、学費口座振替依書、写真等公開にともなう調査のお願いなど) の提出依頼 (児童クラブ⇒各家庭)
- (1月中) ・上記必要書類の提出 (各家庭⇒児童クラブ)
- (2月中) ・必要書類の確認・精査後に、「入会許可書」を送付 (児童クラブ⇒各家庭)

## 冬休みの利用申込について

冬休みの利用申込関係の書類を本日配付させていただきました。**利用予定表の提出期限が11月22日(水)となっています**ので、利用される方は、忘れずをお願いいたします。詳細については、別紙ご案内をご覧ください。

## 学校法人平方学園の90周年記念事業について

学校法人平方学園は、来る12月1日に、創立90周年を迎えます。すでに、新聞等でもご案内しているとおり、11月30日(木)には、高崎市の群馬音楽センターにて創立90周年記念事業を実施します。記念式典のほか、日大文理学部長による講演会や明和県央高校吹奏楽部によるアトラクションも予定されています。

## 子育てのあれこれ No.21

さて、今回からは、「いじめをなくすための子育て」として、基本的な考え方や理論などを紹介

させていただけたらと思います。

今回は、まず、「いじめをしない子に育てること」を中心に紹介させていただきます。

教育心理学者の間で一般的に言われているのは、**子どもは、大人のいじめをモデルとして学習してしまい、自然にいじめを身に付けてしまう**ということです。ここで言う大人とは、父母や祖父母、学校や学童の先生、地域の大人など子どもたちに身近な大人のことで、す。ですから、私たち大人は次のような言動を慎まなければなりません。

- ①「学業成績」や「給与」などの一点だけで人の価値を判断するような差別的な言動
- ②学業や運動などにおける過度の序列化とそれに伴う差別的な言動
- ③自分の好みやその時の気分によって人と対応するなどの不公平な言動
- ④自分のことは棚にあげ、人の過ちばかりに目をやる批判的・攻撃的な言動
- ⑤自分の責任は棚にあげたり転嫁したりして、人の責任ばかり追及しようとする言動
- ⑥人の気持ちや立場を考えない自分本位の言動
- ⑦弱い立場の者を守ろうとせず、弱い立場の者を責めようとする言動
- ⑧ある一点だけでの優位なのに、自覚が足りず人を見下すなど傲慢な言動 等々です。

また、時々、「いじめ」を「笑い」にしているようなTV番組をみかけますが、それも子どもたちにとっては悪いモデルになっていることは間違いありません。

また、子どもたちが**いじめをしてしまうことの大きな要因になっているのが、子どもたちが抱え込んでいる様々なストレス**だと言われています。例えば、テストでいい点を取り、いい成績でいなければならない、部活動でがんばらなくてはならない、少年団のスポーツ活動や習い事などで活躍しなければならない、親や先生の言うことを聞くいい子でいなければならない、どんな友達とも仲良くしなければならないなど、今の子どもたちは自然に多くのストレスを抱え込んでいます。親や先生がそのようなことを求めていることが子どもには分かっているのでプレッシャーとなるのです。そして、これらに関することで叱られたりするとそのストレスはさらに大きくなります。

このような子どものストレスに注目している専門家は、競争原理の社会や学力偏重主義の教育が、いじめの温床になっていると指摘しています。

それでは子どもにかかるプレッシャーやストレスを無くせばいいのでしょうか？

実は、**プレッシャーもストレスも子どもの成長には欠かせないものであることも**、研究結果では分かっています。適度なプレッシャーやストレスは、子どものためには与える必要があるのです。その際ポイントになるのは、そのプレッシャーやストレスを成長のための栄養としていく力がその子にあるかということになります。

例えば、**いじめ行動を誘発するいちばん直接的なストレスは、対人関係におけるストレス**だと言えます。幼いとき、**大勢の仲間と自由に遊ぶ経験**が豊富だったり、**けんかをして自分たちで仲直りした経験**が豊富だったりすると、対人関係におけるストレスに**対処する能力**（コーピング能力）が発達すると言われています。

しかしながら、今の子どもたちには、放課後、近所の大勢の仲間と自由に遊ぶ経験が少なくなり、そのうえ、兄弟げんかもできない子も多くなっており、そのことが、子どもたちの対人関係能力の低下にもつながっていると多くの専門家が指摘しています。

さらに、専門家が指摘していることとしては、**子どものけんかに大人が出て行ってしまふのは最悪**で、そのことが、子どもたちの対人関係能力をさらに低下させていると言います。相手に多少けがをさせるぐらいまでのけんかなら、自分たちで解決できるまで見守るだけの忍耐が大人たちには、必要だと専門家は言います。そして、そのような**「けんかの学習」は、幼児期から児童期の前半にいちばん必要**であるそうです。そうすると、「けんかの学習」をさせる場合は、家庭や地域もそうですが、保育園や幼稚園、そして学校や学童ということにもなります。本来ならば、教師は「けんかの学習」をもっとさせなければならないのですが、「けがの危険性」の方を重視して止めさせる方向で指導してしまうのが、今の学校や学童での現状です。それというの、一度けんかを始めると際限なく相手を攻撃してしまう子（加減のわからない子）が増えていることがあるからです。

実は、そのような子をつくらないためには、**もっと幼い時期でのけんかの経験**が必要であるとともに、**情緒の安定と自発性の発達が必要**であることが分かっています。そこで、今回は、情緒の安定と自発性の発達にも触れ、「いじめられない子やいじめに強い子にするために」の視点も交えながら、いじめをなくすための子育ての基本的な考え方や理論などを紹介させていただけたらと思います。